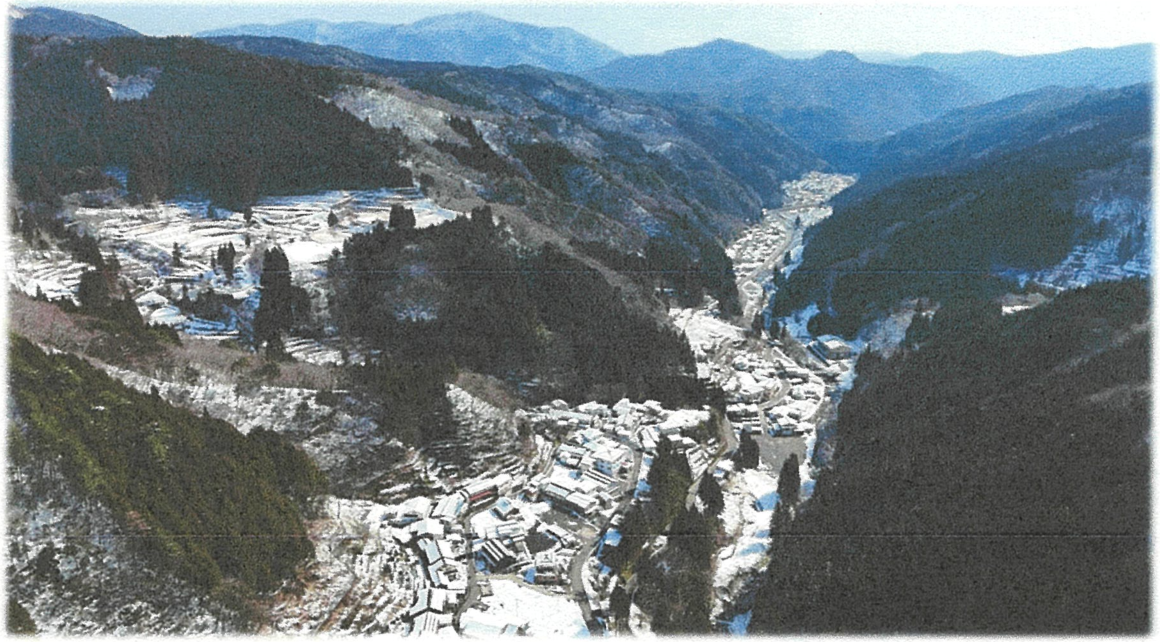
地域まちづくり計画

―熊次地区自治協議会―



（丹戸上空から見た外野方面：令和６年３月11日）

令和６年５月

【はじめに】

この「地域まちづくり計画」は、行政が策定する道路網の整備、公共施設の建設といった計画とは違い地域の住民や団体、自治協議会が主な担い手となって行う日常的な活動を通じて、まち（地域）を作っていくものです。

計画は、令和 6 年度から令和 15 年度までの 10 年間を計画期間とし、【目指す地域の将来像】、【基本目標】、【具体的な取組み】を内容としています。

目指す地域の将来像は「10 年先の熊次地区がどのような姿になっていると良いか」という大きなイメージを描いています。それを実現するための大きな柱立てとして 6 つの基本目標を設定しました。さらに、この目標達成に向けて今後 10 年間で実施していく事項を「具体的な取組み」としてまとめました。

この「具体的な取組み」の細部事項については、自治協議会の役員会、3 つの事業部会（地域自治部会、福祉対策部会、生涯学習部会）などで今後検討していきます。

計画づくりにあたっては、3 つの事業部会ごとにこれまで熊次地区自治協議会で取り組んできた活動の振り返りや昨秋行ったアンケートの結果も踏まえて課題を洗い出し、必要な取組みについて検討しました。

その中で、地域でどのような活動が行われているかの情報収集と共有、魅力発信を進めること、また地域全体の課題を共有し、解決に向けて取り組むことが自治協議会の役割であることが再確認されました。

今回の計画では、気候変動の影響などで近年頻発している自然災害に対して、「防災・減災」の意識を地域全体でさらに高めるために、新たに「防災」に関する項目を追加しています。

一方で、この地域の自然が織り成す四季折々の景観を守る環境保全などの活動は、子どもたちが地域へ愛着を持ってもらうための重要な活動として継続的に地域全体で取組みたいと思います。

過疎化に負けず、この地域に暮らす人々がずっと住み続けたいと思える地域であるために、新たなニーズや課題が発生した場合は計画への追加や修正を行いその時々の新たな視点で活動を進めていきます。

【地域の実情】

① 人口動態

10 年前の平成 25 年からの人口推移をみると、この 10 年間で、地区内人口は 569 人から 401 人と 168 人（30%）減少しています。

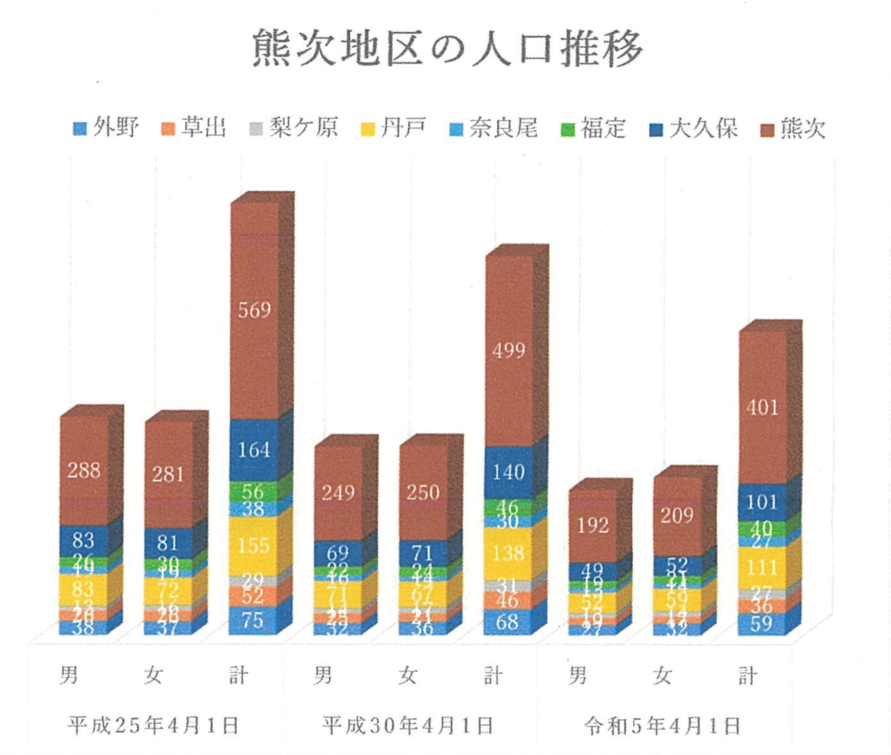
集落別の減少数は、外野 15 人（21%）草出 16 人（30%）梨ケ原 2 人（７%）丹戸 44 人（28%）奈良尾 11 人（29%）福定 16 人（28%）大久保 63 人（38%）となっています。

都会からの U ターンや移住、空き家の利活用などが検討されていますが、現時点では地区内の人口増加にはつながっていません。

65 歳以上の高齢者人口は、地区全体で、10 年前の 198 人から 180 人と 18 人（10%）減少しているのに対し、65 歳未満人口は 10 年前の 371 人から 221 人と 150 人（41%）減少しており、全体の減少率（30%）を大きく上回っています。

65 歳以上の人口がほぼ変わらない中で、65 歳未満の人口が大きく減少していることが子育て世代の減少、少子化、地域行事の担い手の減少などにつながっていると思われます。

また、この間に 65 歳以上の一人暮らしの割合が 13.4%から 15.3%に増えており 75 歳以上の高齢者では 10.8%から 38.5%に大きく増えており、地域の支える力が求められています。



		外野	草出	梨ケ原	丹戸	奈良尾	福定	大久保	熊次
平成25年4月1日	64歳以下	48	37	22	99	22	35	108	371
	65歳以上	27	15	7	56	16	21	56	198
平成30年4月1日	64歳以下	39	29	22	82	14	18	79	283
	65歳以上	29	17	9	56	16	28	61	216
令和5年4月1日	64歳以下	35	18	15	65	9	13	66	221
	65歳以上	24	18	12	46	18	27	35	180

② 地域の産業

熊次地区は、氷ノ山から流れる八木川沿いに7つの小規模集落が連なり、山間の狭い土地を有効に活用して昔から農林業や養蚕などを営んできました。

近年は、補助制度などを活用して農業が盛んな集落がある一方、全体としては農業従事者の高齢化等による耕作放棄地の増加、また、人工林の手入れ不足などで林業の衰退がみられます。

昭和40年代から半世紀にわたって地域の一大産業となった観光業も、近年の不安定な降雪にスキー場は悩まされ、また、林間学校、スキー実習などの教育旅行需要も先細り傾向がみられます。

少子化やレジャーの多様化といった社会情勢の変化や、経営者の高齢化に伴う廃業などにより、大規模宿泊施設が多いハチ高原地区以外はかつての賑いは見られなくなっています。

③生活環境

熊次地区は比較的標高が高く（外野地区の約 400mからハチ高原地区の約 850m）植物の分布も多様で自然景観が美しい所です。特に氷ノ山は春の新緑から秋の紅葉、冬の雪景色と四季を通じて雄大な自然美を満喫でき、この地区に暮らす人々の心の原風景となっています。

半面、急峻な地形から土砂崩れなどの自然災害の恐れのある場所が多く、安全な避難場所の確保も困難な地区が多いなか、山林の荒廃や耕作放棄地の増加による山の保水力の低下から自然災害発生のおそれが増し、イノシシやシカなどによる農作物への獣害も年々深刻になっています。

当地区と鉄道の最寄り駅や市の中心部を結ぶ路線バスが運行されていますが、利用者の減少から通学時間帯以外の便数が減り続け、特に日曜、休日午後の減便は地区民だけでなく登山などに訪れる人へも影響しています。

また、この10年ほどの間に地区内の雑貨屋や酒店が激減し、生活必需品や食品の買い物は約10キロ離れたスーパーマーケットが主なため、まとまった買い物には車がないと不便なうえ、かつては関宮地域に5店舗あったガソリンスタンドも10キロ以上離れた1店舗だけとなり、ガソリンや灯油などの燃料調達も大変になっています。

現状では、食料品の宅配や移動販売、灯油の配達なども依頼でき日常生活に支障をきたす状況ではありませんが、今後は免許を返納し車での買い物ができない人の増加や、人口減少による購買需要の低下などから現行のサービスが維持されるとは限らないことが予想され、いわゆる「買い物難民」の出現が懸念されます。また、これ以上の減便を避けるためにも路線バスの利用促進に地域をあげて取り組むことが必要です。

このように、人口減少が避けられない中にあって、いかにして地域の社会資本やサービスを維持していくかが火急の課題となっています。

④ 地域の声（まちづくり計画作成に向けたアンケートの意見から）

熊次地区の良い点として、静かで空気のきれいな自然環境と景観、昔ながらの人情味、治安が良い点などを多くの人が挙げられています。 他方、自然災害のおそれがある危険個所が多く、避難に関する不安を感じている人が多くあります。また里山や集落周辺の景観維持や地域の伝統行事の担い手など、人口減少と高齢化に伴う人手不足、ひいては地域の活力低下が懸念されています。

こうした中でも、「人口減少や少子高齢化はこの地区に限ったことではない」と受け止め、地域のつながりを大切にしながら、できる限りこの地に住み続けたいという意見が世代を問わず多くありました。とりわけ、中高生のほとんどがこの地域に住みたいという回答を寄せたことは、勇気づけられると同時に次世代にこの地区を伝えていく責任の重さも実感する結果となりました。

まちづくり計画

【目指す地域の将来像】

1　豊かな自然と景観、歴史や文化など地域の誇りを大切にし、誰もが心豊かに暮らせる地域

2　交通、買い物、医療、産業などの生活基盤を守り、不自由なく住み続けることができる地域

3　地域の連帯感や隣近所のつながりを大切にし、助け合い協力し合って活力あふれる地域

【基本目標】

1　防災・防犯　・・・・・・・災害時の対応や防犯について、共に学び、備え、行動できるまちづくり
2　景観・自然環境　・・・・・自然や景観を守り産業振興にもつなげるまちづくり
3　助けあい・支えあい　・・・誰もが安心して笑顔で過ごせるまちづくり
4　健康の維持・増進　・・・・皆が健康で暮らせるまちづくり
5　地域で子育て応援　・・・・地域をあげて子供を見守り育むまちづくり
6　歴史文化の継承　・・・・・熊次地区の歴史・文化を学び、体験し、次世代に継承できるまちづくり

【具体的な取組み】

次項以下に、基本目標に対する具体的な取組みを整理しています。

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	年次計画 6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	役割分担 主に住民	行政と住民	主に行政	備考
1防災・防犯 災害時の対応や防犯について共に学び備え行動できるまちづくり	（1）防災・減災																
	①予測される災害について知り自助の意識を高める機会づくり（防災を考える会　）		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			区ごとに避難訓練などを充実 地域合同で防災訓練を開催 非常電源などの配備
	②地域の危険個所を把握し日常生活の危険防止や避難に役立てる		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			地区内パトロール　ハザードマップの理解と活用
	③安心して避難できる施設の確保と避難環境整備		○	→	→	→	→								○		地域の実情に即し市に働きかけ
	④危険個所の改修	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→			○	できる事は自分たち度取り組み、関係機関への要望も継続
	（2）共助を進める体制整備																
	①地域防災計画にそった役割分担の確認と訓練の実施　防災物品充実		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			消防団、地域防災組織の連携
	②災害時に援護・救護できる人を明確にし必要な器材の整備を行う	○		→	→	→	→	→						○			応急処置セットや搬送手段（担架、リアカー）等
	③災害弱者、自力避難困難者への対応計画の作成	○		→	→	→								○			対象者の把握と対応計画
	（3）地域の防犯																
	①日頃からの声かけ、安否確認		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			
	②犯罪や事故、危険個所について情報共有	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			
	③通学路の見守りパトロール	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			
	④駐在所などの関係機関との連携		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		○		

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	年次計画 6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	役割分担 主に住民	行政と住民	主に行政	備考
2景観・自然環境 自然や景観を守り産業振興にもつなげるまちづくり	（1）地域の自然美、魅力を知る																
	①地域内の自然や景観を知る機会づくり	○		→	→	→	→							○			多世代での地域の魅力探訪
	②耕作放棄地の解消、獣害被害の防止（里山保全）	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		○		計画的に草刈り、農地や広葉樹林の保全　補助事業の活用
	③山や川、集落周辺の美化活動	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			
	（2）観光資源としての活用																
	①情報発信による誘客促進　四季折々の自然美と穴場スポットなどの魅力紹介（体制整備と発信）	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			
	②農林業体験など耕作放棄地、遊休地の活用（制度設計と実施）	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			絶滅危惧種の保護活動
3　助けあい・支えあい 誰もが安心して笑顔で過ごせるまちづくり	（1）交流の場と機会づくり																
	①多世代交流ができる機会づくり、イベントの実施	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			区民交流会　花見交流会
	②同じ立場同士（高齢者、子育て世代）の活動支援や情報交換		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			子供会、女性会、老人会などの育成と活動支援
	③ふれあいサロンなど誰でも気軽に集まれる機会づくり	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			弧食への対応　フレイル予防
	④地区ごとの小さな助けあいの輪を広げる	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			自治協地域づくり事業　助けあい事業補助の活用
	⑤地域インフラの維持（買い物、交通、医療）		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		○		路線バスの利用促進　地元で買い物　近医で受診
	⑦運転免許を返納してもひきこもりにならない取組		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		○		徒歩で行ける農地の確保、高齢者が農業の講師になる

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	年次計画 6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	役割分担 主に住民	行政と住民	主に行政	備考
3　助けあい・支えあい 誰もが安心して笑顔で過ごせるまちづくり	（2）福祉活動に関わる人を増やす																
	①地域内の福祉活動への理解を深める	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			共助の輪を広げる（区、地域）
	②ボランティア活動への理解を深め参加者の掘り起こしとネットワーク化		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			区ごとの計画的実施　補助制度の活用
	（3）見守りや支えあいのつながりづくり																
	①社会福祉協議会、福祉委員の連携強化	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		○		日常の課題に気づき解決の取り組みを行う
	②地域内の連携やかかわりを強める		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			無理、負担感のない距離で係る
4　健康の維持・増進 皆が健康で暮らせるまちづくり	（1）子供から高齢者までの健康づくり																
	①地区民の体力向上に取り組む		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			ラジオ体操、ウォーキングなど体を動かすことを習慣化
	②交流グランドゴルフ大会の実施		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			楽しく体を動かす
	③ヨガや健康体操などの機会づくり		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			自治協の各教室活用
	（2）健康・スポーツ活動の啓発																
	①スポーツクラブ21熊次と連携した活動で幅広い世代の参加を促す	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			コミュニティーセンターの利用拡大
	②健康やスポーツへの関心や興味を深めるセミナーなどの実施		○	→	→	→								○			・住民の希望に沿って実施 ・各種教室を集いの場にする。

基本目標	具体的な取り組み	継続	新規	年次計画 6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	役割分担 主に住民	行政と住民	主に行政	備考
5　地域で子育て応援 地域をあげて子供を見守り育むまちづくり	（1）子育て世代支援																
	①地区内に子育て世代が交流できる場を作る	○		→	→	→	→	→	→					○			公民館拠点に子育て教室、多世代の交流事業
	②親子で楽しめる行事の実施（親子ふれあい事業の活用）	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			区ごとの計画的実施　補助制度の活用
	（2）登下校時の安全確保																
	①事故、犯罪の防止（防犯カメラ、センサーライトの設置）		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→		○		設置補助の検討
	②地域のみんなの目で登下校の様子を見守る		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			
6　歴史文化の継承 熊次地区の歴史・文化を学び、体験し、次世代に継承できるまちづくり	（1）地域住民の交流とふるさとづくり																
	①地域行事の継承（秋祭りの練りこみ、盆踊り音頭）	○		→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			伝統行事は時代に即した方法を模索
	（2）地域の歴史文化に触れる																
	①熊次地区の歴史や伝承、文化について学び伝える機会を作る		○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	○			動植物の写真展　伝統料理の継承
	②各区を探訪し地域文化に触れる機会を作る		○	→	→	→								○			

【終わりに】

この計画を作るにあたって、令和4年9月に地域の中学生以上345名を対象にアンケート調査を実施しました。

その結果202名の方から回答（回答率58.5%）があり、アンケートを通じて寄せられたたくさんの貴重な意見やご指摘をこの計画づくりの指針とさせていただきました。

各分野の基本目標、具体的取組みについては熊次地区自治協議会の3つの事業部会で検討いただいた項目をこの計画に反映しました。また、人口動態については市役所健康課や関宮地域局から提供された資料を基にまとめました。

令和5年度中を通じて各事業部会員による検討過程で多岐にわたる加筆や修正がなされ、役員会、総会の承認を経てこの計画が承認されました。

この計画は10年を期間としていますが、3年経過時点で項目ごとの進捗状況を確認し、適宜必要な修正や追加を行う予定です。

地方の過疎化という全国的な大きな波には抗えなくても、この計画が地区の皆さんに共感されて、「ふるさと熊次」を愛し、誇りをもって暮らし続ける機運につながることを切望します。

令和6年5月26日
熊次地区自治協議会
会長　西谷和弘